



クォータ情報の表示方法

ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

クォータ情報の表示方法	1
クォータ情報の表示の概要	1
クォータ レポートを使用した有効なクォータの確認	1
適用クォータが設定されたクォータとは異なる理由	4
クォータ レポートを使用した特定ファイルへの書き込みを制限しているクォータの特定	5
ONTAPのクォータに関する情報を表示するコマンド	5
volume quota policy rule showコマンドとvolume quota reportコマンドのどちらを使用するか	6

クォータ情報の表示方法

クォータ情報の表示の概要

クォータ レポートを使用して、クォータ ルールおよびクォータ ポリシーの設定、適用および設定されたクォータ、クォータのサイズ変更および再初期化中に発生したエラーなどの詳細を表示できます。

クォータ情報は、次のような場合に表示すると役に立ちます。

- クォータを設定する（クォータを設定し、その設定を確認する場合など）。
- もうすぐディスク スペースまたはファイルの上限に達する、または上限に達したという通知に対応する。
- スペースの拡張要求に対応する。

クォータ レポートを使用した有効なクォータの確認

クォータはさまざまな方法で適用されるため、ユーザが明示的に作成したクォータ以外のクォータも有効になります。現在有効なクォータを確認するには、クォータ レポートを表示します。

次に、FlexVol vol1と、このボリュームに含まれるqtree q1に適用されている各種クォータのクォータ レポートを表示する例を示します。

qtreeにユーザ クォータが指定されていない例

この例の場合、qtreeが1つ存在します（ボリュームvol1に含まれるq1）。管理者が3つのクォータを作成しました。

- vol1に対して400MBのデフォルト ツリー クォータ制限
- vol1に対して100MBのデフォルト ユーザ クォータ制限
- ユーザjsmithのためにvol1に対して200MBの明示的ユーザ クォータ制限

これらのクォータのクォータ ルールは、次の例のようになります。

```
cluster1::*> volume quota policy rule show -vserver vs1 -volume voll
```

```
Vserver: vs1                Policy: default                Volume: voll
                                Soft                Soft
                                Disk                Files                Files
                                Limit                Limit                Limit
Type  Target  Qtree  Mapping  Limit  Limit  Limit  Limit
-----
tree  ""      ""      -        400MB  -      -      -
-
user  ""      ""      off      100MB  -      -      -
-
user  jsmith  ""      off      200MB  -      -      -
-
```

これらのクォータのクォータ レポートは、次の例のようになります。

```
cluster1:::> volume quota report
```

```
Vserver: vs1
                                ----Disk----  ----Files-----  Quota
Volume  Tree  Type  ID  Used  Limit  Used  Limit
Specifier
-----
voll    -    tree  *   0B   400MB  0     -    *
voll    -    user  *   0B   100MB  0     -    *
voll    -    user  jsmith  150B  200MB  7     -    jsmith
voll    q1   tree  1   0B   400MB  6     -    q1
voll    q1   user  *   0B   100MB  0     -
voll    q1   user  jsmith  0B   100MB  5     -
voll    -    user  root  0B   0MB   1     -
voll    q1   user  root  0B   0MB   8     -
```

クォータ レポートの最初の3行には、管理者が指定した3つのクォータが表示されます。これらのクォータのうち2つはデフォルト クォータであるため、ONTAPによって自動的に派生クォータが作成されます。

4行目には、vollのすべてのqtree（この例ではq1のみ）のデフォルト ツリー クォータから派生するツリー クォータが表示されます。

5行目には、ボリュームのデフォルト ユーザ クォータとqtreeクォータが存在するためにqtreeに作成される、デフォルト ユーザ クォータが表示されます。

6行目には、jsmithのためにqtreeに作成される派生ユーザ クォータが表示されます。このクォータが作成されるのは、qtree（5行目）にデフォルト ユーザ クォータが存在し、ユーザjsmithがそのqtree上のファイルを所

有しているためです。qtree q1でユーザjsmithに適用される制限が、明示的ユーザ クォータ制限（200MB）で決定されることはありません。これは、明示的ユーザ クォータ制限がボリュームに対するものであり、qtreeの制限には影響を及ぼさないためです。qtreeの派生ユーザ クォータ制限は、そのqtreeのデフォルトユーザ クォータ（100MB）で決定されます。

最後の2行には、そのボリュームおよびqtreeのデフォルト ユーザ クォータから派生する他のユーザ クォータが表示されます。rootユーザがボリュームとqtreeの両方でファイルを所有しているため、ボリュームとqtreeの両方のrootユーザに派生ユーザ クォータが作成されました。クォータに関してrootユーザは特別な扱いを受けるため、rootユーザの派生クォータは追跡クォータのみです。

qtreeにユーザ クォータが指定された例

この例は、管理者がqtreeにクォータを2つ追加したことを除き、先の例に似ています。

ボリューム1つ（vol1）と、qtree 1つ（q1）がまだ存在しています。管理者が次のクォータを作成しました。

- vol1に対して400MBのデフォルト ツリー クォータ制限
- vol1に対して100MBのデフォルト ユーザ クォータ制限
- ユーザjsmithのためにvol1に対して200MBの明示的ユーザ クォータ制限
- qtree q1に対して50MBのデフォルト ユーザ クォータ制限
- ユーザjsmithのためにqtree q1に対して75MBの明示的ユーザ クォータ制限

次に、これらのクォータのクォータ ルールの例を示します。

```
cluster1:~> volume quota policy rule show -vserver vs1 -volume vol1
```

Vserver: vs1		Policy: default			Volume: vol1		
Type	Target	Qtree	User Mapping	Disk Limit	Soft Disk Limit	Files Limit	Soft Files Limit
tree	""	""	-	400MB	-	-	-
user	""	""	off	100MB	-	-	-
user	""	q1	off	50MB	-	-	-
user	jsmith	""	off	200MB	-	-	-
user	jsmith	q1	off	75MB	-	-	-

次に、これらのクォータのクォータ レポートの例を示します。

```

cluster1::> volume quota report
Vserver: vs1

Volume Tree      Type  ID      ----Disk----  ----Files-----  Quota
Specifier
-----
-----
vol1  -      tree  *       0B  400MB  0      -      *
vol1  -      user  *       0B  100MB  0      -      *
vol1  -      user  jsmith 2000B 200MB  7      -      jsmith
vol1  q1     user  *       0B  50MB   0      -      *
vol1  q1     user  jsmith 0B    75MB  5      -      jsmith
vol1  q1     tree  1       0B  400MB  6      -      q1
vol1  -      user  root   0B    0MB   2      -      -
vol1  q1     user  root   0B    0MB   1      -      -

```

クォータ レポートの最初の5行には、管理者が作成した5つのクォータが表示されます。これらのクォータのいくつかはデフォルト クォータであるため、ONTAPによって自動的に派生クォータが作成されます。

6行目には、vol1のすべてのqtree（この例ではq1のみ）のデフォルト ツリー クォータから派生するツリー クォータが表示されます。

最後の2行には、そのボリュームおよびqtreeのデフォルト ユーザ クォータから派生するユーザ クォータが表示されます。rootユーザがボリュームとqtreeの両方でファイルを所有しているため、ボリュームとqtreeの両方のrootユーザに派生ユーザ クォータが作成されました。クォータに関してrootユーザは特別な扱いを受けるため、rootユーザの派生クォータは追跡クォータのみです。

次の理由から、他のデフォルト クォータと派生クォータは作成されませんでした。

- ユーザjsmithは、このボリュームとqtreeの両方にファイルを所有していますが、両方のレベルですでに明示的クォータが存在するため、このユーザに派生ユーザ クォータは作成されませんでした。
- このボリュームまたはqtreeのどちらかにファイルを所有しているユーザが存在しないため、他のユーザに派生ユーザ クォータは作成されませんでした。
- qtreeにはすでにデフォルト ユーザ クォータが存在するため、このボリュームのデフォルト ユーザ クォータによってqtreeにデフォルト ユーザ クォータが作成されることはありませんでした。

適用クォータが設定されたクォータとは異なる理由

適用クォータは設定されたクォータとは異なります。派生クォータは設定されることなく適用される一方、設定されたクォータは正常に初期化されたあとにのみ適用されるためです。これらの違いを理解すると、クォータ レポートに表示される適用クォータと設定したクォータを比較するのに役立ちます。

クォータ レポートに表示される適用クォータは、次の理由から、設定されたクォータ ルールとは異なる場合があります。

- 派生クォータは、クォータルールとして設定されることなく適用されます。派生クォータは、デフォルトクォータに応じてONTAPによって自動的に作成されます。
- クォータルールが設定されたあと、ボリュームでクォータが再初期化されていない可能性があります。
- ボリュームでクォータが初期化されたときにエラーが発生した可能性があります。

クォータレポートを使用した特定ファイルへの書き込みを制限しているクォータの特定

特定のファイルパスを指定してvolume quota reportコマンドを実行すると、どのクォータ制限がファイルへの書き込み処理に影響しているかを確認できます。これは、どのクォータが書き込み処理を妨げているかを把握するのに役立ちます。

手順

1. -pathパラメータを指定してvolume quota reportコマンドを使用します。

特定のファイルに影響しているクォータの表示例

次の例は、FlexVol vol2のqtree q1に存在するファイルfile1への書き込みにどのクォータが影響しているかを確認するコマンドと出力を示しています。

```
cluster1:> volume quota report -vserver vs0 -volume vol2 -path
/vol/vol2/q1/file1
Virtual Server: vs0
```

Volume	Tree	Type	ID	----Disk----		----Files-----		Quota
				Used	Limit	Used	Limit	
vol2	q1	tree	jsmith	1MB	100MB	2	10000	q1
vol2	q1	group	eng	1MB	700MB	2	70000	
vol2		group	eng	1MB	700MB	6	70000	*
vol2		user	corp\jsmith	1MB	50MB	1	-	*
vol2	q1	user	corp\jsmith	1MB	50MB	1	-	

5 entries were displayed.

ONTAPのクォータに関する情報を表示するコマンド

コマンドを使用して、適用されたクォータとリソース使用量を含むクォータレポートを表示したり、クォータの状態とエラーに関する情報、またはクォータポリシーとクォータルールに関する情報を表示したりできます。



次のコマンドは、FlexVolに対してのみ実行できます。

状況	使用するコマンド
強制クォータに関する情報を表示する	<code>volume quota report</code>
クォータ ターゲットのリソース使用量（ディスク容量とファイル数）を表示します	<code>volume quota report</code>
ファイルへの書き込みが許可された場合に影響を受けるクォータ制限を決定する	<code>`volume quota report`</code> と <code>`-path`</code> パラメータ
<code>`on`</code> 、 <code>`off`</code> 、 <code>`initializing`</code> などのクォータ状態を表示します。	<code>volume quota show</code>
クォータ メッセージのログ記録に関する情報を表示する	<code>`volume quota show`</code> と <code>`-logmsg`</code> パラメータ
クォータの初期化とサイズ変更中に発生したエラーを表示する	<code>`volume quota show`</code> と <code>`-instance`</code> パラメータ
クォータ ポリシーに関する情報を表示する	<code>volume quota policy show</code>
クォータルールに関する情報を表示する	<code>volume quota policy rule show</code>
Storage Virtual Machine (SVM、旧Vserver) に割り当てられているクォータ ポリシーの名前を表示する	<code>`vserver show`</code> と <code>`-instance`</code> パラメータ

``volume quota``の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/search.html?q=volume+quota](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/search.html?q=volume+quota)["ONTAP コマンド リファレンス"]を参照してください。

volume quota policy rule showコマンドとvolume quota reportコマンドのどちらを使用するか

どちらのコマンドもクォータに関する情報を表示しますが、``volume quota policy rule show``は構成されたクォータ ルールを迅速に表示するのに対し、``volume quota report`` コマンドはより多くの時間とリソースを消費し、強制されたクォータとリソース使用量を表示します。

``volume quota policy rule show``コマンドは、次の目的に役立ちます：

- アクティブ化する前にクォータ ルールの設定を確認する

このコマンドは、クォータが初期化されているかサイズ変更されているかに関係なく、設定されているすべてのクォータルールを表示します。

- システム リソースに影響を与えずにクォータ ルールをすばやく表示する

ディスクおよびファイルの使用量が表示されないため、このコマンドはクォータ レポートほどリソースを消費しません。

- SVMに割り当てられていないクォータ ポリシー内のクォータ ルールを表示する

```
`volume quota policy rule show`
```

の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-quota-policy-rule-show.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。

```
`volume quota report`コマンドは、次の目的に役立ちます：
```

- 派生クォータを含む適用クォータを表示する
- 派生クォータの影響を受けるターゲットも含め、有効なすべてのクォータで使用されているディスクスペースとファイル数を表示する

(デフォルト クォータの場合、結果の派生クォータに照らして使用量が追跡されるため、使用量は「0」と表示されます)。

- ファイルへの書き込みを許可するタイミングに影響するクォータ制限を特定する

```
`-path`パラメータを `volume quota report`コマンドに追加します。
```



クォータ レポートの生成には大量のリソースが消費されます。クラスタ内の多数のFlexVolに対して実行すると、完了までに時間がかかることがあります。SVM内の個々のボリュームのクォータ レポートを表示する方が効率的です。

```
`volume quota report`の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-quota-report.html ["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。
```

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。